

令和4年度

奈良市立看護専門学校

社会人入学試験問題

国語

試験時間 50 分（問題 1～17）

注意事項

1. 試験開始の指示があるまで問題を開いてはいけません。
2. 机には、受験票、筆記用具、時計以外のものを出してはいけません。
3. 係員の指示に従って、下欄及び解答用紙に受験番号と氏名を記入し、解答用紙の受験番号欄をマークしてください。
4. 解答方法：選択肢(1～5)から**正解を一つ選び**、解答用紙の解答欄の該当番号をマークしてください。二つ以上マークした場合には誤りとなります。
5. マークは解答用紙の「マークの方法」の「良い例」のように濃く、はっきりと塗りつぶしてください。「悪い例」では採点されない場合があります。
6. 試験中に問題の印刷不鮮明等に気付いた場合は、手を挙げて係員に知らせてください。なお、問題の内容に関する質問にはお答えできません。
7. 問題の余白はメモ等に使用して構いません。
8. この問題冊子は回収します。持ち帰らないでください。

受験番号

--	--	--

氏名

--

第1問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

(島流しの刑を受けた喜助を船で護送する役人の羽田庄兵衛は、喜助の表情が他の罪人と違うことに気づき話しかけた)

喜助はにっこり笑った。「御親切におっしゃってくださいって、ありがとうございます。なるほど島へゆくということは、ほかの人には悲しい事でございます。その心持ちはわたくしにも思いやってみることができます。しかしそれは世間でらくをしていた人だからでございます。京都は結構な土地ではございますが、その結構な土地で、これまでわたくしのいたして参ったような苦しみは、どこへ参ってもなかりと存じます。お上のお慈悲で、命を助けて島へやったださいます。島はよしやつらい所でも、鬼のすむ所ではございますまい。わたくしはこれまで、どことって自分のいていい所というものがございますでした。こんどお上で島にいろとおっしゃってくださいます。そのいろとおっしゃる所に落ち着いていことができますのが、(ア) まず何よりもありがたい事でございます。それにわたくしはこんなにかよわいからだではございますが、ついで病気をいたしたことはございませぬから、島へ行ってから、どんなつらい仕事をしたって、からだを痛めるようなことはあるまいと存じます。それからこんど島へおやりくださるにつきまして、二百文の鳥目^{注1}をいただきました。それをここに持っております。」こう言いかけて、喜助は胸に手を当てた。遠島を仰せつけられるものには、鳥目二百銅をつかわすというのは、当時の^{おきて}掟であった。(A)

喜助はことばをついだ。「お恥づかしい事を申し上げなくてはなりません、わたくしは今まで二百文というお足を、こうしてふところに入れて持っていたことはございませぬ。どこかで仕事に取りつきたいと思って、仕事を尋ねて歩きまして、それが見付き次第、骨を惜しまずに働きました。そしてもらった銭は、いつも右から左へ人手に渡さなくてはなりません。それも現金で物が買って食べられる時は、わたくしの工面のいい時で、たいていは借りたものを返して、またあとを借りたのでございませぬ。それがお牢^{ろう}にはいつてからは、仕事をせず食べさせていただきます。わたくしはそればかりでも、お上に対して済まない事をいたしているようではませぬ。それにお牢を出る時に、この二百文をいただきましたのでございませぬ。こうして相変わらぬお上の物を食べていて見ますれば、この二百文はわたくしが使わずに持っていることができます。お足を自分の物にして持っているということは、わたくしにとっては、これが始めてでございます。島へ行ってみますまでは、どんな仕事ができるかわかりませんが、わたくしはこの二百文を島でする仕事の^{もとで}本手にしようと楽しんでおります。」こう言って、喜助は口をつぐんだ。(B)

庄兵衛はかれこれ初老に手の届く年になっていて、もう女房に子供を四人生ませている。それに老母が生きているので、家は七人暮らしである。平生人^{りんしよく}には吝嗇^{注2}と言われるほどの、儉約な生活をしていて、衣類は自分が役目のために着るもののほか、寝巻しかこしらえぬくらいにしている。しかし不幸な事には、妻をいい身代^{しんだい}の商人の家から迎えた。そこで女房は夫の^ふもち米^{ちまい}で暮らしを立ててゆこうとする善意はあるが、ゆたかな家にかわいがられて育った癖があるので、夫が満足するほど手元を引き締めて暮らしてゆくことができない。ややもすれば月末になって勘定が足りなくなる。すると女房が内証で里から金を持って来て帳尻を合わせる。それは夫が借財というものを毛虫のようにきらうからである。そういう事は所詮夫に知れずにはいない。庄兵衛は五節句^{さとかた}だと言っては、里方から物をもらい、子供の七五三の祝いだと言っては、里方から子供に衣類をもらうのでさえ、(イ) 思っているのだから、暮らしの穴をうめてもらったのに気がついては、いい顔はしない。格別平和を破るような事のない羽田の家に、おりおり波風の起こるのは、これが原因である。(C)

庄兵衛は今喜助の話を聞いて、喜助の身の上をわが身の上引き比べてみた。喜助は仕事をして給料を取っても、右から左へ人手に渡してなくしてしまうと言った。いかにも哀れな、気の毒な境界^{注3}である。しかし一転してわが身の上を顧みれば、彼と我との間に、はたしてどれほどの差があるか。自分も上からもらう扶持米を、右から左へ人手に渡して暮らしているに過ぎぬではないか。彼と我との相違は、いわば(ウ) 十露盤の桁が違っているだけで、喜助のありがたがる二百文に相当する貯蓄だに、こっちはないのである。㉑

さて桁を違えて考えてみれば、鳥目二百文をでも、喜助がそれを貯蓄と見て喜んで無理はない。その心持ちはこっちから察してやることができる。しかしいかに桁を違えて考えてみても、不思議なのは喜助の欲のないこと、足ることを知っていることである。㉒

喜助は世間で仕事を見つけるのに苦しんだ。それを見つけさえすれば、骨を惜しまずに働いて、ようよう口を糊^{のり}することのできるだけで満足した。そこで牢に入ってから、今まで得がたかった食が、ほとんど天から授けられるように、働かずに得られるのに驚いて、生まれてから知らぬ満足を覚えたのである。

庄兵衛はいかに桁を違えて考えてみても、(エ) ここに彼と我との間に、大いなる懸隔のあることを知った。自分の扶持米で立ててゆく暮らしは、おりおり足らぬことがあるにしても、たいてい出納が合っている。手いっぱい生活である。しかるにそこに満足を覚えたことはほとんどない。常は幸いとも不幸とも感ぜずに過ごしている。しかし心の奥には、こうして暮らしていて、ふいとお役が御免になったらどうしよう、大病にでもなったらどうしようという疑懼^{注4}が潜んでいて、おりおり妻が里方から金を取り出して来て穴うめをしたことなどがわかると、この疑懼が意識^{しきい}の闕^{注5}の上^{注5}に頭をもたげて来るのである。

いったいこの懸隔はどうして生じて来るだろう。ただ上べだけを見て、それは喜助には身に係累がないのに、こっちにはあるからだと言ってしまうまでである。しかしそれはうそである。よしや自分が一人者であったとしても、どうも喜助のような心持ちにはなれそうにない。(オ)と、庄兵衛は思った。

庄兵衛はただ漠然と、人の一生というような事を思ってみた。人は身に病があると、この病がなかったらと思う。その日その日の食がないと、食ってゆかれたらと思う。万一の時に備えるたくわえがないと、少しでもたくわえがあったらと思う。たくわえがあっても、またそのたくわえがもっと多かったらと思う。かくのごとくに先から先へと考えてみれば、人はどこまで行って踏み止まることができるものやわからない。それを今目の前で踏み止まって見せてくれるのがこの喜助だと、庄兵衛は気がついた。

庄兵衛は今さらのように驚異の目をみはって喜助を見た。この時庄兵衛は(カ) 空を仰いでいる喜助の頭から毫光^{注6}がさすように思った。 (森鷗外「高瀬舟」による)

(注) 1 鳥目：穴あき銭 2 吝嗇：けち 3 境界：境遇 4 疑懼：疑いを抱き、不安に思うこと 5 闕の上：境目

6 毫光：仏から発する光

問題 1 次の文は本文の一部である。本文中の㉑～㉒のうち、挿入場所として最も適当なものを一つ選択せよ。

庄兵衛は「うん、そうかい」とは言ったが、聞く事ごとあまり意表に出たので、これもしばらく何も言うことができずに、考え込んで黙っていた。

1 ㉑ 2 ㉒ 3 ㉓ 4 ㉔ 5 ㉕

問題2 下線部(ア)「まず何よりもありがたい」とあるが、喜助がそのように考える理由として最も適当なものを一つ選択せよ。

- 1 鬼のような人達に苦しめられることがなくなったから。
- 2 つらい思いをした土地から逃げることができたため。
- 3 心も体も安心して落ち着ける場所を与えてもらえるから。
- 4 仕事とたくわえを与えてくれたから。
- 5 命を助けてもらったから。

問題3 空所(イ)に当てはまる語句として最も適当なものを一つ選択せよ。

- 1 有り難く
- 2 憎らしく
- 3 悲しく
- 4 心苦しく
- 5 うらやましく

問題4 下線部(ウ)「十露盤の桁が違っているだけ」とあるが、これはどのようなことを意味しているか。最も適当なものを一つ選択せよ。

- 1 庄兵衛と喜助には、役人と囚人という立場の違いこそあるが、人間としては対等であること。
- 2 喜助は島流しになり、人生が桁違いに変わったが、結局、庄兵衛と同様に落ち着いた生活ができるようになったこと。
- 3 庄兵衛の方が養う家族の人数は多いが、家族一人当たりの生活費で比べれば喜助と同じ程度であること。
- 4 多い、少ないの違いはあるが、二人ともお上から給料をもらっている点では同じであること。
- 5 庄兵衛の方が喜助より収入は多いが、支出も多く、差し引きしてお金が残らない点は喜助と同じであること。

問題5 下線部(エ)「ここに彼と我との間に、大いなる懸隔のある」とあるが、具体的に二人の間にどのような隔たり(懸隔)があるとされているか。最も適当なものを一つ選択せよ。

- 1 家族を養っている者と、そうでないものとの隔たり。
- 2 鳥目二百文の貯蓄を持つものと、持たぬものとの隔たり。
- 3 分相応に満足することを知らぬ者と、知らない者との隔たり。
- 4 生活に不安を抱えている者と、そうでない者との隔たり。
- 5 定職についている者と、職のない者との隔たり。

問題6 空所(オ)に当てはまる語句として最も適当なものを一つ選択せよ。

- 1 自分も喜助の心持ちを見習わなくてはならない
- 2 やはり、職業の違いにあるのだ
- 3 考えるだけ無駄である
- 4 罪人はやはり特別であるのだ
- 5 この根底はもっと深いところにあるようだ

問題7 下線部(力)「空を仰いでいる喜助の頭から毫光がさすように思った」とあるが、庄兵衛には、なぜそう思えたのか。その理由として最も適当なものを一つ選択せよ。

- 1 人間の際限のない欲望を断ち切るという凡人にはできかねることを喜助が実行していることに感銘を受けたため。
- 2 自分の罪を償う固い決心ができていたことが伝わってきたから。
- 3 差し込む空の光が喜助に当たり、それがいかにも喜助自身から発せられたように見えたため。
- 4 罪人と思っていた喜助が、意外にも人格者であったことに強く驚いたため。
- 5 人生の不安に立ち向かっていく喜助の強い勇気を感じることであったため。

問題8 次のうち本文の内容に合致する記述として最も適当なものを一つ選択せよ。

- 1 喜助は、京都で非常につらい思いをしたため、そこには二度と戻るまいと決心している。
- 2 世の中には、喜助のように貧しさに苦しむ人々がほかにも沢山いる。
- 3 島流しの罪人は、住まいや食べ物の面倒をお上にみてもらえ、恵まれた境遇にある。
- 4 庄兵衛は、暮らしへの不安や不満の原因が、自身の気の持ち方にあることを喜助に教えられた。
- 5 庄兵衛は、裕福な商人の家から妻を迎えたことを後悔している。

第2問 次の各問いに答えよ。

問題9 下線部の漢字の読み方が正しいものを一つずつ選択せよ。

- (1) 1 船が砕氷(すいひょう)しながら航行する。
2 災害の惨禍(さんか)を被る。
3 経歴の一部を詐称(さくひょう)する。
4 酌量(ちょうりょう)により減刑される。
5 友人は私の話に口を挟(つま)んできた。
- (2) 1 彼女は漆黑(しんこく)の髪をしている。
2 軍隊が島に駐屯(ちゅうりゅう)する。
3 採用された暁(つき)には、全力で業務にあたるつもりだ。
4 オリンピック選手団が勇姿(ゆうそう)を現す。
5 今後について思い煩(わずら)う。
- (3) 1 幼少期のことを述懐(じゅっかい)する。
2 酔った勢いで気炎(けえん)をあげる。
3 訃報を受け哀惜(あいとう)の念に堪えない。
4 予鈴(よりん)が鳴ったので着席する。
5 危うく崖から墜落(かつらく)しそうになる。

問題10 下線部の漢字が正しいものを一つずつ選択せよ。

- (1) 1 その議論は粉糾した。
2 相手に我々の利益を共与する。
3 事件の時功が撤廃される。
4 太宰治に傾到する。
5 彼の思想は市民に浸潤した。

- (2) 1 赤字がどんどん累積する。
2 決算書に薄価を記録する。
3 提出された議案を採可する。
4 トラックに荷物を積載する。
5 暴風雨が猛異を振るう。
- (3) 1 長年の遺恨をついに晴らした。
2 英達を望み、仕事に励む。
3 敵の陣衛を攻撃する。
4 彼への援助を確認する。
5 彼女こそが委員長に的任だと思う。
- (4) 1 それは全代未聞の大事件だ。
2 被疑者が鑑獄に収容される。
3 成績不振により監督が更迭された。
4 俳優の迫信の演技に感動する。
5 断涯をひたすら登る。

問題 11 次の下線部と同じ漢字を使うものを一つずつ選択せよ。

- (1) 人生の分キ点を迎える。
1 この宝石はキ少価値が高い。
2 課題が多キにわたっている。
3 彼女はキ抜なファッションを好む。
4 キ承転結を意識して物語を作る。
5 偉人の伝キを読む。
- (2) 探査船で海底を掘サクする。
1 労働者をサク取してはいけない。
2 教科書のサク引を読む。
3 二酸化炭素排出量のサク減目標を立てる。
4 目のサッ覚に騙される。
5 米の豊サクを祈願する。
- (3) 彼の腕前はプロに匹テキする。
1 テキ度な換気を心掛ける。
2 彼女の振る舞いはまさに大胆不テキだ。
3 病院で点テキを打つ。
4 祖母は非常に高い美テキセンスの持ち主だ。
5 腫瘍のテキ出手術を行う。

問題 12 次のうち「起源」の同意語として正しいものを一つ選択せよ。

- 1 起因 2 終了 3 発祥 4 根幹 5 起草

問題 13 次のうち「寛容」の反意語として正しいものを一つ選択せよ。

- 1 寛解 2 度量 3 規律 4 厳格 5 厳守

問題 14 次の語句の意味として正しいものを一つずつ選択せよ。

(1) アーカイブ

- 1 時々刻々と生まれ続けている巨大なデジタル情報
- 2 大規模な記録・資料の集積体
- 3 図書館や図書室
- 4 見出しや索引、または指数
- 5 中身、内容

(2) 馬脚を露す

- 1 隠していた正体がばれてしまうたとえ。
- 2 きわめて危険な状態に追い込まれていること。
- 3 才能や腕前が際立って目立つようす。
- 4 いかにもすぐれた人でも、しくじることがあるというたとえ。
- 5 いやみやあくどさがなくなって、すっきりと洗練されているようす。

(3) 清濁併せ呑む。

- 1 悔しい気持ちや泣きたい気持ちを、じっとこらえる。
- 2 重ねてひどい目にあう。
- 3 悪魔が心に入り込んだかのように、ふと、考えられないような悪い考えを起こす。
- 4 心につかえていたものがなくなり、気持ちがさっぱりする。
- 5 善悪の分け隔てなく、来るものすべてを受け入れる。

(4) 意気揚揚

- 1 互いの思いや気持ちがぴったりと合い、一つになること。
- 2 見通しが明るく、希望に満ちていること。将来の望みが多いこと。
- 3 気持ちが高まり、自信たっぷりに、誇らしげにふるまうさま。
- 4 準備を怠りなく行うこと。
- 5 見かけは異なっているように見えて、中身はほとんど同じであること。

(5) 一騎当千

- 1 ちょっとした展開のあやで喜んだり不安になったりして、状況に振り回されること。
- 2 一度に労せずして多額の利益を得ること。
- 3 一生涯のうちにただ一度きりであること。
- 4 ずば抜けて強い勇者、または、学識・経験・手腕などが人並みすぐれた実力者のこと。
- 5 敵や相手のすきをねらって、じつくりと機会をうかがうこと。

問題 15 次の意味を表す言葉として正しいものを一つずつ選択せよ。

- (1) 一定の地域に居住し、共同体意識を持つ人々の集団。
- 1 コミュニティ
 - 2 プレジデント
 - 3 アソシエーション
 - 4 コンセプト
 - 5 グローバリゼーション
- (2) ある一つの場所に、どっしりと落ち着く。
- 1 わらにもすがる
 - 2 首が回らない
 - 3 手が付けられない
 - 4 路頭に迷う
 - 5 腰を据える
- (3) すぐれたものとつまらないものとが入りまじって区別がないこと。
- 1 古今東西
 - 2 諸行無常
 - 3 明鏡止水
 - 4 玉石混淆こんこう
 - 5 麻中之蓬よもぎ

問題 16 次のうち下線部の言葉の用法として正しいものを一つ選択せよ。

- 1 ダイエット中の私に料理番組は目の毒だ。
- 2 朝のラッシュ時間、駅では多くの人が押し合い引き合いしてうまく動けない。
- 3 大事な話の途中で電話がかかってきたため、話の筋を折られた。
- 4 彼女はすぐに秘密を話したがるので、舌が軽いと言われている。
- 5 こんな大量の仕事は、私の目に余る。

問題 17 次の記述に当てはまる人物の名前として正しいものを一つ選択せよ。

東京生まれの小説家であり、歌人である。中島歌子の萩の舎塾に入門し、半井桃水や「文学界」同人の感化を受ける。「にごりえ」「十三夜」「たけくらべ」などに明治の女性を哀感を込めて描く。また、その「日記」も文学的価値が高いとされている。

- 1 宮本百合子
- 2 北原白秋
- 3 樋口一葉
- 4 幸田露伴
- 5 与謝野晶子

以 上